

# 令和7年度 学び舎ひまわり第2講 開催報告

日時 令和7年 10月11日(土) 13時~16時  
会場 区役所6階 601・602号 会議室  
受講生 24名(地域16名 企業2名 区役所6名)

## プログラム内容

様々なジャンルの取組を4つとりあげ、当事者による取組内容の説明を聞いた後、グループ別に意見交換をしました。

進行役：NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク 坂本 寿子 氏 時任 和子 氏

### 事例① 日野南町内会の取組

発表者：石川 雅史 氏

『日野南地区の取り組みについて』



町内会役員が単年度制となり、活動の継続性が失われやすくなりました。担い手不足は深刻で、次期役員を見つけるのが困難に。「町内会はもう不要」と考える住民も増えており、地域活動への関心が低下していました。そこで町内会役員の役割分担を細分化し、効率化が図られました。また懸案となっていた地域企業（介護施設）の町内会加入を進めました。委嘱委員の選出方法も見直し、担い手不足への対応を模索しています。町内会にはいろんな経験者がいるので活動やルール作りに活かさせていけばいいなと思います。

#### 【意見交換の内容（抜粋）】

- ・町内会の仕事は頼みにくい雰囲気もあったが、やってみると楽しいこともある。分担して仕事を見えるようにしていたので、関わりやすかった。何をやっているかの理解が大事。
- ・会長は忙しいと思うが、仕事との両立は？  
→役割分担が大事。自分はシフト調整できたが、副会長と交代してもらうなどの工夫をした。自分だけで抱え込まないことが大切。
- ・引継ぎについて知りたい  
→以前の会長が役割分担し、USBにデータを整理。前役員と新役員でLINEグループを作り、情報交換や意見交換をした。データが残っていると運営がやりやすい。
- ・企業参加については？  
→福祉法人は地域に関わりたいという気持ちが強く、加入につながった。

## 事例② 永谷連合町内会

発表者：若林 諭 氏

### 『「こども」と「地域」との結びつき～芹が谷中学校お祭りボランティアの誕生～』



子どもと地域をつないで、中学生に担い手になってもらおうという取り組みです。「支えあいネットワーク」は意見や課題を持っている人がまちづくりについて話し合う場。令和6年度は子どもたちが地域でやってみたいことについて中学生の意見を聞きました。出た意見の中から、夏祭りに中学生だけで企画から運営まで行うブースを持ってもらい、大盛況となりました。お祭りボランティアを通じて子どもたちに地域に興味をもってもらい、大きくなったら地域に戻り、関わってもらえたら嬉しいなと思います。

#### 【意見交換の内容（抜粋）】

- ・ボランティアというお手伝いというイメージ。子どもたちが主体的に動いていることがすごいと思った。  
→自分たちで何をやりたいか考えてもらい、自分たちで主体的にやる。ブースと予算を預けて任せる。
- ・中学生に当たり前に参加してもらおうためのヒントは？  
→自分たちが楽しくないとやらない。やりたいことをやってもらう。町内会がしっかりしていることが一番大切。「町内会って人だよ。町内会のために何かやって」となるといい。
- ・学校と上手くやれたのはなぜ？  
→校長が変わるたびにご挨拶している。地域の活動を知らせてお誘いする。  
学校といっしょにやると教育の一環となるので、授業時間内におさめるなど、大変なところはありますが、工夫している。

## 事例③ 南平台自治会（日下）の取組

発表者：菅野 洋子 氏

### 『ハロウィンパトロール』



学び舎ひまわり受講中、イベントをやりたいというプランを作成したのに、町内会長になってすぐにコロナ禍になってしまいました。そこでコロナ禍でも楽しめるイベントとして、ハロウィンパトロールを企画しました。お子さんも大人も含めて本当にたくさんの方が集まって、楽しまれています。仮装、フォトスポット、防犯啓発を組み合わせた内容です。中学生ボランティアが進行、運営を担当し、地域とのつながりを強化しました。地区社協との連携で、区外の住民も参加可能とし、垣根を超えた交流を促進しています。

### 【意見交換の内容（抜粋）】

・自治体とハロウィンが結びつかなかった。どのような発想か。

視点がおもしろい。成功したのはすばらしい。

→役員は一年交代。みんなで仲良くやっていきたいと飲みニュケーション、「パトロールをやろう」となった。みんなの合意が大事。

・パトロールに参加する人をどうやって集めたのか？

→お母さんたちのLINEグループ。掲示板はA3にして目立つように。LINEは前日にも送る。パトロールをしながら、高齢者のお住まいに新聞がたまっていないかの確認もしている。自治会の区域がわからない人もいるので、パトロールを通して知っていただく。

### 事例④ 日野ヶ丘町内会（日野第一）の取組

発表者：神吉 雄三 氏

#### 『町内会の防災活動 在宅避難の啓発など』



防災対策に取り組むようになって10年が経ちました。防災活動は「自助の保険」です。災害が起きた時のために、少なくとも3日から一週間の水と食料の備蓄は必要です。家が残っていることが前提ですが、在宅避難を現実として考える必要があります。発災後、行政からの支援の手は届きにくいと思った方がいいです。

また、今後は町内会で防災フェスタを開催、内容を子どもでも楽しめるようなものにしたり、ファミリーキャンプを防災教育として楽しみながらやっていこうとしています。地域のウィークポイント（人・環境・地形）を把握し、対策を講じるのが大事です。

### 【意見交換の内容（抜粋）】

・防災を始めるとしたら、どういうことからやったらよいか？

→すぐ取り組めることとしては、「楽しいイベントに防災を入れてしまう」こと。防災クイズなどで、興味を持ってもらう。子どもたちといっしょに防災バーベキュー大会など。

・防災拠点委員長をやるのが大変で会長交代がある。あまりにも負担が大きく困ってしまう。

→一人が長くやると頼ってしまい、後が育たない。ブロックに分けてブロックリーダー会議という形にすると広く役割分担できる。

・町内にはいろいろな人がいる。みなさんついてくるのか？

→ついてきてもらう。自分の味方を3人つくる。一人に集中させるといやになってしまう。

## 学びのまとめ 集計結果

回答数 24件 / 回収率 100%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
21	3	0	0	0
87.5%	12.5%	0%	0%	0%

### 受講生の声（抜粋）

- ◎主体的に参加できる仕組みづくりが継続するポイントになっていると感じた。
- ◎事例発表者の話を聞くだけでなく、質問できたのがよかった。
- ◎日野第一地区の防災活動は災害を他人事ではなく、自分ごとにする必要性を改めて考えさせられた。
- ◎子どもと地域の結びつき、中学生を地域で活かすことが素晴らしいと思った。
- ◎防災訓練に中学生が参加しているが、学校との協議が必要と感じる。
- ◎活動への熱意がどこから来るのか興味がある。

